

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立東濃特別支援学校

学校番号	116
------	-----

自己評価

学校教育目標	子どもたちの命を守り、願いや夢を実現する教育を実践するとともに、将来の社会参加や生活自立を可能にする教育活動の開発と創意に努める。
評価する領域・分野	小学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭との連携」に関する設問に対し、高評価の回答者率が高く、学校が積極的に保護者への連絡や意思疎通を行っている結果が反映されている。 ・「授業」に関する設問に対し、高評価の回答者率が高く、体験的な活動を取り入れた授業を実践することで、児童生徒が意欲的に取り組んでいることが評価されている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>家庭・地域生活に関する基礎的能力や意欲を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体や命を大切にする。 ・相手を思いやり、楽しく生活する。 ・目標や夢に向かって努力する。
重点目標を達成するための校内組織体制	学校教育目標の達成に向けて、学部や各分掌が連携を図り、学校全体として系統性のある指導体制で取り組む。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体や命を守るための継続的な「命を守る訓練」の実施。 ・居住地校交流や地域交流の積極的な推進と実施。 ・実際の生活に生きる力を育てるための、体験学習をはじめとした、具体的な活動を通じた学習の実施。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練時における児童の行動の様子。 ・各種交流活動における児童の様子や、本校児童に対する交流相手の受入れ状況。 ・学校における教育活動全般を通じた児童の変容。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の身を守りきるための訓練の実施。 ・積極的な居住地校交流や、さまざまな団体等との地域交流の実践。 ・実際の生活に根差した、生活力を高めるための教育活動の実践。
評価の視点	評価
① 継続的な「命を守る訓練」での児童の行動	A (B) C D
② 各種交流活動の積極的な実践	A (B) C D
③ 児童の生活に真に必要とされる教科学習や、体験的学習活動の実践	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>●相手校との打ち合わせを事前に十分行ったことで、活動の設定や保護者の願を反映させた交流を年間を通して実施できた。</p> <p>○合わせた指導を行う中に、教科で付きたい力を意識した活動を設定し、実践することができた。</p> <p>▲教科学習や生活単元学習で学んでいる内容が、児童の生活に真に必要とされているものかどうかの検証が不十分だった。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生単等合わせた指導のあり方について、また教科学習について、どのように取り組んでいくのか、学部や学校の課題として実践研究を重ねていく。 ・自分の体や命を大切にするという観点からも、今後、食育を大切にしていくことが必要であり、食に関する指導に係る全体計画の作成をし、学校全体で食育を進めていくようにする。

評価する領域・分野	中学部
現状及びアンケートの結果分析等	生徒の実態に合った授業の工夫や宿泊学習等の体験的活動に対する評価が高い。また保護者への連絡や意思疎通についても概ね高い評価が得られた。一方で、進路指導に関する項目では「分からない」と答える保護者がやや多く、昨年度に引き続いて課題が残った。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	小学部もしくは小学校までに積み上げてきた基礎的能力を働くことや生活の場において変化に対応できる力を育てる。
重点目標を達成するための校内組織体制	学校教育目標に基づき、各種活動ごとの担当者を複数名設置し、小グループを中心として円滑に企画、運営できる体制を組織した。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行、宿泊学習、校外学習、水泳実習、スケート実習、交通安全教室校種間交流等の明確な狙いに基づく体験的活動 ・職場等見学、作業学習集中週間、作業作品販売活動(ハッピーマーケット) ・居住地校交流、地域の学校・住民との各種交流活動、積極的発信
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習後の振り返りにおける自己評価。 ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の支援内容、成長の様子、学習状況・内容を保護者とともに検証・評価する。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2年合同の縦割りグループを作り、生徒が主体的な活動ができるよう計画して宿泊学習を行った。旭高原少年自然の家でネイチャーゲームやキャンドルサービス、野外炊飯等普段体験できない活動を計画実施できた。 ・親交のある私学高校生と窯まつりに向けて年間4回ダンスを通じて交流を深めた。小グループでの継続した交流形態のため、お互いに理解が深まった。 ・各学年に居住地校交流担当を置いて、定期的な実施ができた。 ・学部集会が定着し、生徒会の活躍する場面を意図的に設定することができた。また、生徒にも1ヶ月毎の振り返りや見通しを持たせることができた。
評価の視点	評価
① 「教育活動・学習指導」…体験的教育活動の実践	A ㉞ C D
② 「進路指導」…「働く人になる」を目標とした進路指導	A B ㉞ D
③ 「保護者、地域との連携」…積極的な各種交流活動	A ㉞ C D
成果・課題	総合評価
<p>○宿泊学習では、体験的な活動を複数計画実施でき、他学年生徒や他学年の教師との関わり、グループを中心に活動範囲を広げた。生徒にとって貴重な経験となった。</p> <p>○地域間交流では、昨年度も交流した近隣の私学高校と窯まつりに向けたダンスを通して小グループでの交流が効果的であった。</p> <p>▲進路学習の保護者、地域への積極的な理解啓発の工夫が必要。</p> <p>▲居住地校交流では事前に交流校との間で狙いを明確にし、交流内容も再検討する必要を感じた。また、交流した生徒が発表できる場も学部内で設けたい。</p>	A ㉞ C D
来年度に向けての改善方策案	進路に関する情報の保護者への効果的な発信、居住地校交流の狙いの明確化と交流発表の設定、保護者との信頼関係強化

評価する領域・分野	高等部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を保護者や関係機関と連携して作成し、将来を見通した支援については高く評価されているが、指導内容を分かりやすく伝えることが求められてる。

	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態の応じた教材・教具の開発にはさらなる向上が求められている。 施設設備の充実について、評価が低い。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	中学校、中学部段階で培ってきた能力を土台に、働くことの知識、技能の獲得や必要な習慣形成を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 高等部全職員による指導、支援および連携を図る。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 行事への取組を通して、計画性や協調性の伸長を図る。 作業学習（校内、企業内）、現場実習の充実を図る。 保護者への進路情報の周知を図る。 高校との交流、共同学習に取り組む。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 実習や行事、授業等に取り組む姿勢及び生徒の感想等による自己評価 実習先での評価 保護者によるアンケート評価
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 企業内作業学習や現場実習先の開拓に努めた。 瑞浪高校、土岐紅陵高校及び東濃フロンティア高校との交流、共同学習を実施した。 作業学習製品販売会を年間3回実施した。また地域の道の駅「志野・織部」にて常時作業製品の販売を行っていただけるようになった。
評価の視点	評価
①生徒の能力の伸長	Ⓐ B C D
②全職員の取組状態	A Ⓑ C D
③保護者の期待	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の進路希望や実態に合わせて進路開拓を行い、県内外の新規企業に就職することができた。 ○行事や実習への取組を通して、自己の課題に向き合い克服することで、自己肯定感を持つことができた。 ○作業学習で、新しい製品作成や班を横断したコラボ商品を開発した。 ▲個人情報紛失しかける事案が連続した。今一度個人情報の取り扱いについて周知徹底を図っているが、今後も慢心せず注意を払っていく必要がある。 	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域への情報発信（作業製品販売や進路情報等）を充実させる。 個々の生徒に合った支援を工夫し、授業研究や教材研究をさらに進める。 個人情報の取り扱いについて、研修会を設け、職員全体の意識を高める。

評価する領域・分野	教務部
現状及びアンケートの結果分析等	指導内容や指導方針についてよい結果を受けた。また、学校施設への不満は高いものの、少しずつではあるが理解を得られてきている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 教科等を合わせた指導だけでなく、教科学習でも体験的な学習を取り入れる。 交流学習や学校行事を通して、子どもたちの様子や学びの成果を積極的に発信する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 教師の指導力向上に向けた授業実践ができるように研修部と連携をとって進める。 学校施設で学校祭を実施できるように実行委員会を置く。 地域の学校のよさを活かすことができる交流学習を設定する。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や個別の教育支援計画の内容から、子どもの様子に合わせた支援ができているかを確認し、必要に応じて助言する。

	<ul style="list-style-type: none"> 校外で行ってきた学校祭のよさを活かしつつも、学校施設でできる内容を考える。 専門教科や部活動を活かした交流学习を他校に呼び掛ける。
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが体験的な学習から学びを深められたか。 交流学习や学校行事を子どもたちの様子や学びの成果を発信できたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに様子に合わせた支援について助言した。 学校で学校祭が実施できるように、発表時間、使用施設を工夫して実施した。 高等学校との交流学习の回数を増やした。
評価の視点	評価
①子どもたちの学びが深まったか。	A B C D
②交流学习や学校行事を子どもたちの様子や学びの成果を発信できたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ●教科等を合わせた指導で、教科のねらいを明確にもって指導できていない。 ○体験的な活動を取り入れることができ、子どもたちが意欲的に学ぶことができた。 ○3年ぶりに学校施設で学校祭を実施することができた。 ●学校祭では、発表の場や時間を分けすぎて、一体感にかける場面も見られた。 ○新たな交流学习を設定でき、来年度以降も継続できることとなった。 	A B C D
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 教科等を合わせた指導の単元計画に、教科のねらいを明記するように書式を変更する。 単元計画の評価を行い、その評価を指導と評価の年間計画に反映させて、内容を見直す。 学校祭は、一人一人の発表の場を大切にするとともに、小学部、中学部、高等部が一体感をもって活動できるように今年度中に実施要項を作成した。

評価する領域・分野	研究と研修
現状及びアンケート の結果分析等	「学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、児童生徒は意欲的に取り組んでいる。」については、昨年度より 4.3 ポイントアップして、95.7%と肯定的な評価を得た。また、昨年度は「学校の授業内容や進度は、児童生徒の実態に即している。」や「学校の授業は、児童生徒一人一人に合った教材・教具が準備されている。」の項目は、全項目の中でも低い評価だったが、今年度はどちらも 80% 近くの評価を得た。授業づくりを大事にしてきた主題研究の成果といえる。
今年度の具体的かつ 明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践を第一に考え、児童生徒が主体的に学べる授業づくりを行う。 特別支援学校の教員としての専門性を高める研修を行う。
重点目標を達成する ための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりを研究のテーマとし、定期的に研究の日を設ける。 各分掌と連携し、専門的知識を高めるための研修会を実施。 各分掌と連携し、指導支援に関わる情報を校内外に発信する。
目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりの段階から、多くの意見を出し合えるような場を設け、研究授業、事後研究会を通して、児童生徒の主体的な学びを目指す。 外部講師を招聘した研修会や、本校職員が講師となる自主研修会を実施し、専門性の向上を図る。
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業、授業研究会の充実度。 職員研修会や自主研修会の充実度、参加率。 研修後アンケートの結果。

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業研究会を9月と12月に実施し、職員の授業作り、授業改善への意識が高まった。 ・年2回の外部講師による研修会、本校職員を講師とした自主研修会を4回実施した。
評価の視点	評価
①授業づくりから多くの職員でかわり、児童生徒が主体的に学びに向かえるような授業づくりや授業改善ができたか。	A (B) C D
②各種研修を通して、職員の専門的知識や資質を高めることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究を主とした取り組みで、生徒が主体的に学ぶ授業改善を心がけることができた。 ○授業研究を通して、多面的な考えやさまざまな意見を知ることができた。 ▲教員としての基礎的な知識や指導技術の向上、特別支援学校の教員としての専門性の向上については、今後も継続した研修を行う。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりや授業改善を継続して行いつつ、計画的で系統的な教育（計画）を目指す。 ・教員としての基礎的な知識や指導技術の向上、特別支援教育に係る専門性の向上を目指し、全体での研修会や自主研修会、日常的な授業参観等を充実させる。

評価する領域・分野	生活支援
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・項目（33）については高い評価を得られている。 ・項目（24）（25）については、「当てはまらない」という回答は少ないものの、「わからない」と言う回答率が高かった。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教師対象に命の教育がテーマの教員研修の充実を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援委員会の開催や学部等での情報共有。 ・児童生徒向け学校生活アンケートの実施といじめ防止等対策検討委員会の実施。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについてのスペシャリストサポートやスクールカウンセラーを講師に招き、教員向けに講演会を開催する。 ・情報モラル教室を年2回開催する。 ・人権ひびきあい週間における人権に係る授業を実施する。 ・学校生活アンケートの内容について、必要に応じ担任と情報共有を行う。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの有無 ・学校生活アンケートによる生徒の困り感についての問題解決。 ・生徒支援委員会やいじめ防止検討委員会における意見・評価。 ・児童生徒の学校生活の様子を踏まえた保護者からの意見。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援委員会を開催し情報共有と対策の検討を行う。 ・学校いじめ基本方針の確認・修正と、児童生徒への支援方法についての意見収集を目的としたいじめ防止等対策検討委員会の実施。 ・いじめや情報モラルについて専門家を講師として招き、生徒や職員に啓発を行うことができた。
評価の視点	評価
①児童生徒が楽しく学校に登校でき、いじめの事実はなかったか。また、いじめを発見した場合に早期対応することができたか。	(A) B C D
②職員間の児童生徒の情報共有ができていたか。	(A) B C D

③生徒のスマートフォン使用について、モラルを守った使い方ができていたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
○児童生徒の情報共有を密にし、きめ細かな支援を行うことができた。 ○スクールカウンセラーやスペシャリストサポートを利用して外部機関と連携し職員研修を行うことができた。 ▲コミュニケーションを取ることが苦手に対人関係を築くことが難しいため、コミュニケーション能力の育成が必要である。 ▲携帯電話やスマートフォンの使用について、フィルタリングの設定を行うことや家庭でのルールを決める必要がある。	A B C D
来年度に向けての改善方策案	・児童生徒の生徒指導について、より一層生徒情報の共有を深める。また、いじめ防止検討委員会において支援方法に係る意見収集を行う。 ・携帯電話、スマートフォンについて、家庭と連携した取り組み体制を構築し、両者がより一層連携した支援を行う必要がある。

評価する領域・分野	健康支援
現状及びアンケートの結果分析等	・項目「医療機関と常に連携を図って、児童生徒の健康管理に気を配っている」に対して「あてはまる」という評価が昨年度より4%増加し、82%であった。今後さらに医療的機関との連携を綿密に行い、保護者にも分かりやすく伝えていきたい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・健康教育では、子どもの発達段階や障害の特性を正しく理解しながら、性教育、歯みがき指導、手洗い学習、栄養教諭と共に行う食育を計画し、推進する。 ・児童生徒が安全な学校生活を送るために、事務職員と綿密に連携をとりながら安全点検を行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	・各学年やクラスで児童生徒の実態に応じた健康教育（性教育、歯みがき指導、食育、体育活動、手洗い等の衛生指導）を計画、実施する。 ・救命法講習、緊急時対応訓練、安全点検、インシデント報告等、いろいろな場面を想定した危機管理について、教職員間で共通理解を図っていく。
目標の達成に必要な具体的取組	・外部講師、栄養教諭等と連携した計画的な健康教育の実施。 ・インシデント、アクシデントについて、朝礼やメールでの情報共有。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・手洗いや歯みがき等の衛生指導では、日常生活における児童生徒の実践。 ・性教育や食育等の健康教育授業では、課題に取り組む姿や授業後の行動の様子。 ・緊急時対応、医療的ケア、食物アレルギー等における情報共有やその後の実践。
取組状況・実践内容等	・歯科指導（歯科衛生士）、外部講師による教職員研修会（救急法、性教育）。 ・性教育授業記録、性教育段階別指導内容表の作成。

評価の視点	評価
① 児童生徒の実態に応じて健康教育の授業の内容や回数等を工夫し、実践することができたか。	A B C D
② 職員研修や緊急時対応訓練を通して、教職員の専門的知識や資質を高めることができたか。	A B C D
③ 児童生徒の健康管理や支援を行うための情報の共有を行うことができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
○性教育では、学習計画表や学習の記録を保存していくファイルを作成することで、見直しをもって授業を進めていくことができた。 ▲食育の流れについて職員会等で繰り返し伝えたり、学校安全ハンドブックに記載したりして職員に周知し、学年・クラスごとに取り組む内容や回数を増やしていく。	A B C D

来年度に向けての改善方策案	・子どもたちが安全な学校生活を送るために、安全点検内容を改善し、施設・設備の点検をきめ細かく行う。
---------------	---------------------------------------------------

評価する領域・分野	防災安全	
現状及びアンケートの結果分析等	・「学校は、児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている」という項目に92.4%が「あてはまる」という評価があり、昨年度より2.2ポイント増加し、学校の安全教育に関わる活動が認められている。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・さまざまな状況を想定した各種訓練の実施と各種マニュアルの検証、見直しを行う。 ・地域資源を活用した防災教育の推進。 ・職員研修の実施や防災通信等の啓発活動。	
重点目標を達成するための校内組織体制	・年3回の命を守る訓練と、引き渡し訓練、合計7回のショートの命を守る訓練の実施（全校体制）。 ・消防署や市の防災課と連携した防災、減災の取り組み（防災安全部中心）。 ・防災教育についての情報発信や啓発活動（職員中心）。	
目標の達成に必要な具体的取組	・命を守る訓練では、非常食体験や教室内DIG、ライフライン停止のため放送機器が使えない想定での訓練の実施。 ・消防署の助言や各市のハザードマップを使用した防災・減災意識向上のための取り組み。 ・防災教材や防災知識、防災授業等の提供や防災通信の発行。	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・各防災訓練及び研修の振り返りと、マニュアルの見直し、改善の共通理解。 ・消防署による検査と、それによる指摘への改善を実施。 ・職員への防災教育についてのアンケートの実施。	
取組状況・実践内容等	・命を守る訓練、安全確保ミニ訓練（ショートの命を守る訓練）、引き渡し訓練、備蓄の充実、防災教育研修、防火設備操作研修、不審者対応研修。	
評価の視点	評価	
② 訓練や研修を通して、緊急時の対応・備えができていますか。	A (B) C D	
③ 地域と連携した防災安全活動が展開できていますか。	A (B) C D	
④ 全校で防災・減災教育の授業実践ができていますか。	A (B) C D	
成果・課題	総合評価	
○命を守る訓練で非常食を食べたり、教室内DIGを行ったりして、より体験的な取組を通して非常災害時をイメージできるように取り組めた。 ○消防署の助言を受けて、消防計画や危機管理マニュアルの見直し、改善に努めることができた。 ▲ショートの命を守る訓練を定期的に行うことで、命を守る行動は定着してきた反面、同じことの繰り返しだけでは危険を感じる行動が薄れてしまうと感じた。防災教育を訓練と合わせて取り入れ、より現実的な取り組みができるようにしたい。	A (B) C D	
来年度に向けての改善方策案	・防犯も含め様々な非常事態に対応できる訓練を取り入れるようにする。 ・地域や専門家と連携しながら、より具体的な危機管理マニュアルを作成し、非常変災時に対応できる組織体制をつくる。	

評価する領域・分野	進路支援
現状及びアンケートの結果分析等	・「進路に関する連絡や情報提供を児童生徒や保護者に向けて適切に行なっている」→あてはまる90%、あてはまらない5%、分からない5%

	<ul style="list-style-type: none"> 「進路指導において関係諸機関との連携をきめ細かく行っている」 →あてはまる73%、あてはまらない5%、分からない22%
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p><子どもたちの心と身体を大切に作る組織づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関との情報交換や研修を通して、職員のスキルアップを図る。 保護者のニーズに合わせて情報提供し、進路支援への理解と啓発に努める。 <p><地域で明るく生活し、地域社会に貢献できる力の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> 作業学習や実習等を通して、自己理解能力や社会自立に必要な力を育てる。 関係機関と連携し、卒業生の職場定着支援及び生活支援の充実を図る。 <p><「分かった」「できた」喜びのある授業実践></p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を通して、社会生活への意欲を育てる。 実習等の体験活動を通して、自分の課題に気づき、改善できるようにする。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 分掌会での情報共有 学部会や学年会で共通理解、各担任との積極的な情報交換 教務部や研修部、渉外部との連携
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 職員への情報提供と研修、保護者を対象とした懇話会や相談会等の実施 関係機関の参加によるケース会議や懇談等の実施、追指導への同行 キャリア教育についての研修、発達段階ごとの「育てたい力」の整理
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 職員の進路情報への関心や理解、保護者の懇話会や相談会への参加 高3生徒の進路実現と卒業生の職場定着の状況 各学年（部）の生徒の進路学習に対する関心や意欲
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 保護者を対象に、学年（学部）ごとの懇話会や年2回の進路相談会を行った。進路通信を年5回発行した。 関係機関と連携し、卒業生の状況把握と支援を行った。また、高3生徒についても、在学中から実態を知ってもらうことで卒業後の支援につながるようにした。 分掌内でキャリア教育についての研修を行い、系統性のある進路支援を意識して「育てたい力」を発達段階ごとにまとめた。
評価の視点	評価
② 保護者が、必要な情報を得て、進路支援への意識を高めることができたか。	A (B) C D
③ 卒業生が、それぞれの進路先に安定して通うことができたか。	(A) B C D
④ 生徒が自分の進路に関心をもち、実現するために努力する姿が見られたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○懇話会や進路相談会へ参加する保護者が増えてきた。 ○関係機関と連携して対応することで卒業生の不安や悩みを早期に解決することができ、安易な離職を防ぐことができた。 ▲準ずる教育課程の進路支援について、本人や保護者への情報提供が十分にできなかった。 ▲自分の希望にこだわって進路がなかなか決まらない生徒がいた。キャリアカウンセリングを重ね、自分のよさや課題を意識できるようにする必要がある。 	A (B) C D

評価する領域・分野	地域支援センター（特別支援学校のセンター的機能）
現状及びアンケートの結果分析等	「地域のセンター的機能の役割を果たしている」については、7割以上の方に高い評価をいただいた。しかし、「分からない」という評価が2割弱あり、引き続き、センター的機能の業務についての周知徹底が課題である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の相談支援を積極的に行い、職員の指導力の向上を図る。 適切なアセスメントに基づいた教育的支援を助言したり、情報の共有を図ったりして地域における特別支援教育のネットワークを強化する。

重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援センター ・他分掌、各学部との連携
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育機関等からの依頼に応じて継続的な相談支援業務にあたる。 ・公開授業研究会や専門家による公開講座を公開し、研修の場を提供する。 ・医療・福祉の関係諸機関向けの公開授業、意見交流会や保護者向けの合同説明会を実施する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援の依頼件数及びリピート率や相談支援後の報告書による検証 ・公開授業研究会や公開講座の参加者数及びアンケート結果 ・医療・福祉の関係諸機関向けの公開授業、交流会や合同説明会の参加者数
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関等からの依頼に応じた相談支援や研修会等の講師を務めた。 ・外部講師による公開講座や公開授業研究会を地域へ情報提供をした。 ・福祉関係機関による合同説明会や授業公開、意見交流会を実施した。
評価の視点	評価
① 相談支援の依頼内容により、地域の特別支援の質の向上が確かめられたか。	A (B) C D
② 公開講座は参加者に満足してもらえたか。	(A) B C D
③ 福祉関係機関による合同説明会や交流会は、連携の強化につながったか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<p>○相談支援、来校相談・見学、支援登校の依頼が多くあり、気軽に相談できる機関としてのニーズに応えることができた。</p> <p>○公開講座や公開授業研究会では多くの参加者があり、アンケート結果においても地域支援センターへの期待度や信頼度を確認することができた。</p> <p>○合同説明会や公開授業、意見交流会を開催することができ、地域の教育・福祉・医療等関係機関や保護者との連携を図るとともに情報提供の機会となった。</p> <p>▲幼保、小中高等学校の移行期における引継ぎについて「個別的教育支援計画」の活用を軸にした連携をコーディネートしていくことが課題である。</p> <p>▲専門性と実践力の向上を目指して、さらに情報発信や研修の機会を計画する。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターの専門性の向上を目指すとともに校内の支援を積極的に進め、職員間の連携を図る。 ・医療、福祉、教育機関との積極的なネットワークの構築と連携強化を図るために、それぞれの役割を明確にした支援体制をつくる。

評価する領域・分野	渉外
現状及びアンケートの結果分析等	「地域に開かれた学校」という項目に対して、「あてはまる」という意見が78%となっている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動を通して、保護者間の親睦を深めたり、研修を通して知識を深めたりする。 ・地域、関係者機関との連携を推進し児童生徒への理解と支援の充実を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区、委員会ごとに担当の教員がつき、連携して行事を行う。 ・児童生徒の理解のため地域に児童生徒の作品や活動を紹介する場を設ける。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会員同士の情報交換や親睦を深めるために、「バレンタイン整理」「先輩ママパパとの懇談会」「各種研修会」「施設見学・食事会」等を行う。 ・地域資源を活用したPTA行事を計画する。 ・児童生徒の美術作品の校外作品展や学校活動を紹介した会報の発行を行ったり、新聞社等に児童生徒の姿を紹介する記事の依頼を行ったりする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA行事での参加者の参加率や満足度。 ・地域との連携（情報発信、地域資源の活用）

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの各行事では、会員同士で情報交換をして有意義に過ごすことができた。先輩ママパパとの懇談会で、卒業後の保護者とのつながりをもつことができた。 ・「スポレク」や「親子ふれあい祭り」では、新しいコーナーを増やし、レク協会やバスケットボールチーム、スラックライン協会等の方と楽しく活動することができた。 ・PTA行事をHPで紹介したり校外作品展を新たに1ヶ所増やしたりした。
評価の視点	評価
① PTA行事で参加者や主催者が満足できたか（アンケート結果より）。	A (B) C D
② 地域資源を活用できたか。	A B (C) D
③ 児童生徒の活動を地域に紹介できたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○5年ぶりに行った「夏祭り」では、参加者がとても楽しんで活動していた。</p> <p>○スポレクでは、新たに地域のバスケットボールチームにも声をかけ、一緒に活動を楽しむことができた。</p> <p>○HPのPTA活動の欄に記事を3回掲載したり、児童生徒作品展の展示場所を新たに増やしたりした。3月発行の会報を新たに卒業生の進路先にも配布する予定。</p> <p>○市役所との懇談会では、直接保護者の言葉を伝えたり、情報をいただいたりした。</p> <p>▲PTA行事への参加者が決まってきたので、魅力ある行事を企画したり、PTA新聞やHPなどでの広報活動に力を入れたりしていきたい。</p> <p>▲地域の特別支援学級やボランティアとも、よりかかわりをもてるとよい。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・スポレク、親子ふれあい祭り等の行事の参加を地域にも呼び掛ける。 ・進路研修会として、高等部卒業生の保護者と本校PTAとの茶話会を行う。 ・本校ホームページやPTA新聞で、PTA活動をこまめに紹介していく。

評価する領域・分野	寄宿舎（舎務部）
現状及びアンケートの結果分析等	<p>② 児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている（92.4%）。</p> <p>②児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばせるような工夫をしている。（91.4%）。</p> <p>③ いろいろな人との交流を大切にし、児童生徒の経験を広げている（93%）。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>①子どもたちの心と身体を大切にする組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中のさまざまな場面で訓練や体験活動を定期的に行う。 ・共に生活する異年齢の仲間とのかかわりを通して、適切なかかわり方を経験しながらコミュニケーション力を育てる。 ・食や性について、適切な支援・指導が進められるよう、保護者や関係する学部、分掌と積極的に連携を図る。 <p>②「分かった」「できた」喜びのある実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎での行事や自治会等を児童生徒が主体的に取り組める場として充実を図る。 ・職員研修を積極的に行い、専門性の向上を図るとともに、保護者や学部とより連携しながら、社会生活や家庭生活を見据えた繋がりのある支援を行っていく。 ・生活面における寄宿舎指導員の専門性を活かし、短期で寄宿舎を利用する寄宿舎チャレンジを学部の要望を受けて行う。生活面の実態を把握しながら、生活自立や身辺自立等に向けての課題を保護者・学部と共有する。 <p>④ 地域で明るく生活し、地域社会に貢献できる力の育成</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた校外学習や余暇活動、交流会等を通して、地域資源を効果的に活用していく。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員部会、チーフ会、舎内分掌会（庶務、保健安全、研修、舎生支援）、日々の連絡会で指導員間の共通理解を図る。 ・学部や関係する校務分掌との連携を図る。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各種訓練や体験活動を実施する。 ・発達段階表やキャリアの観点を活用した舎生支援と寄宿舎チャレンジを実施する。 ・個の目的に応じた交流会への参加や地域資源を活用した校外学習を実施する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種訓練や体験活動時の舎生の姿。 ・舎生や寄宿舎チャレンジ実施児童生徒の実態の変化。 ・事前事後を含めた交流時の舎生の姿。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練2回、停電体験2回、不審者対応訓練2回、搜索訓練3回、緊急時対応訓練月1回、非常食体験2回を実施した。 ・発達段階表やキャリアの観点、生活面の実態表等から、支援のポイントを明確にした支援・指導を実施した。 ・河合地区長寿会、瑞浪高等学校、愛の家グループホームとの交流や居住地域での買い物学習、公共交通機関の利用等を実施した。
評価の視点	評価
① 各種訓練を実施し、命を守る基本的な方法や手段が身につくように習慣づけができたか。	Ⓐ B C D A Ⓑ C D
② 発達段階表やキャリアの観点を活用した支援を実施することができたか。	A Ⓑ C D
③ 将来の社会生活を見据えた交流活動を実施することができたか。	
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○舎生の実態から想定した緊急時対応訓練を毎月実施したことで、危機管理意識の向上につながった。 ○キャリアの観点や発達段階表を活用することで、児童生徒の生活実態の把握や支援の充実につながった。 ▲個の目的や実態に応じた交流や校外学習を意識して実施してきたが、単発的になってしまった。 	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策	交流や校外学習について、年間を通して段階的に行い、つながりのある取組にしていく。

学校関係者評価

意見・要望・評価等（学校アンケート、及び第2回学校評議員会等より）
<p>1 保護者への学校アンケート結果について</p> <p>90.7%の回答率で、高評価項目（1よくあてはまる、2あてはまるが90%以上のものが19項目あり、昨年度の10項目を上回った。区分としては、教育方針・家庭連携、また、児童生徒の様子や授業、指導支援の在り方や教職員に関するものが挙げられた。</p> <p>課題としては、昨年度の44.5%に比しては低かったものの、34.8%の保護者より、施設設備の不十分さを指摘された。</p> <p>2 学校評議員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が一つのチームとして子どもたちのために努力していることが感じられる。今後も、できる形で継続して支援していきたい。 ・保護者アンケートの結果より、教職員に対する評価が高いことは、組織としてうまく機能してい

るということであり、今後もこの状態を継続されることを願う。

- 今後も外部への情報発信を継続していただくことが、イメージアップにもつながる。自治会としても、広報誌等への記事の掲載等、できる形で協力していくので、PRに活用していただきたい。
- 卒業後の受け皿として、できる形で協力していきたい。学校では、卒業後社会に受け入れられるように、児童生徒の力を伸ばしていただきたい。
- 働きたいという気持ちのある生徒がいたら、何かの形で協力させていただきたい。また、一般就労を目指す、もう少しトレーニングが必要な方への資源として、就労継続支援A型事業所があるので、今後も活用していただきたい。
- 食育については、児童生徒だけではなく保護者向けにも、食の大切さ等について働き掛ける機会が必要である。